

新斎場が始動



JA筑紫は11月7日、那珂川市のやすらぎ会館那珂川斎場で落成慶讃法要を開きました。

新斎場は自然豊かな同市の風景に合うよう、緑色を基調とした建物です。50～150名が着席可能なホールと、近年増加している家族葬用の部屋を備えています。また、遺族が過ごしやすいよう控室や宿泊用の部屋などのスペースを広くとっています。

白水清博組合長は「組合員の強い希望のもと、新斎場の建設をすすめました。構想から完成まで、およそ9年かかりましたが、組合員や地域住民の理解と、建設関係者の努力のもと立派な斎場が完成しました。故人の最期を見送る温かい場になるよう運営していきたいです」と挨拶しました。

秋風に揺れる十月桜 満開



太宰府市の組合員、木本敏政さんの畑に植わるジュウガツザクラ（十月桜）が見頃を迎えました。木本さんは農作業のかたわら、淡いピンク色の可憐な花を眺め、秋の花見を楽しんでいます。木本さんは約40年前にジュウガツザクラの苗を植え、生長を見守ってきました。名前の通り毎年秋に花をつけ、春にも再び開花。秋は、9月下旬に咲き始め、10月下旬から11月上旬に満開を迎えます。

木本さんは「秋は、春に比べると花の数も少なく、1つ1つが小ぶり。可愛い花が咲くのを毎年楽しみにしています」と笑顔で話していました。

新斎場で内覧会



JA筑紫は11月10日と11日の2日間、JAやすらぎ会館那珂川斎場で、内覧会を開きました。7日に落成したばかりの斎場が、組合員や地域住民にお披露目されました。斎場内の見学や葬儀の事前相談の他、実際に棺に入る入棺体験などを行いました。

斎場内を見学した組合員は「新しい斎場はバリアフリーで広々しているため、利用しやすいと感じました。JAは身近な存在。葬儀も安心して任せられます」と話しました。

那珂川斎場の小森雅彦館長は「多くの方が熱心に見学し、家族や自分の葬儀を想定した相談や質問をされていました。イベント以外の日でも、気軽に相談や見学に訪れて欲しいです」と話していました。

青壮年部 創部40周年祝う



JA筑紫青壮年部は11月10日、筑紫野市で40周年記念式典を開きました。

青壮年部の城戸剛部長は「創部40周年の節目を迎えられたことを嬉しく思います。現在、さまざまな活動に取り組めるのは、歴代の先輩盟友が力を合わせて活動し、信頼を得てきたから。今後も頑張りたいです」と挨拶しました。

西日本豪雨被害の復興支援 義援金贈呈



JA筑紫は西日本豪雨被害の復興を支援するため、義援金をJA福岡中央会へ届けました。この義援金は、JA筑紫が開いた「ふれあいゴルフコンペ」の参加費の一部と合わせたものです。同会を通して被災地へ送られます。

白水組合長は「組合員と利用者が協力して下さいました。義援金が復興に少しでも役立つと嬉しいです」とあいさつ。倉重会長は「寄付してくれた組合員や利用者の方に大変感謝しています。復興のためにありがとうございます」と話していました。

収穫を前に研修



JA筑紫は、筑紫野市のJA物流センターで、平成30年産大豆収穫前研修会を開きました。

研修会には、大豆生産者や普及指導センター、JA全農ふくれん、JA職員などが参加。出荷者を代表して、農事組合法人西小田代表理事の藤井徳浩さんは「『反収200kgを目指そう』を合言葉に管理をしてきました。管理を徹底し、1粒でも多くの大豆を収穫しましょう」と呼びかけました。

日頃の成果を舞台上で披露



JA筑紫女性部は11月14日、JA本店で第16回趣味・文化グループ活動発表会を開きました。各活動グループと応援に訪れた参加者は257名。カラオケ、健康体操などを舞台上で披露しました。また、ロビーには、さげもんや生け花などの作品が展示され、会場を華やかに彩りました。

ステージで発表した参加者は「緊張したけれど、日頃の成果を披露することが出来て、とても楽しかったです」と笑顔で話しました。

まちの安全に貢献 防犯資機材贈る



ＪＡ筑紫は１１月１６日、春日警察署で、安全で安心なまちづくりに役立つ資機材の贈呈式を行いました。春日署の藤博隆署長、ＪＡの白水清博組合長などが参加。ＪＡが春日・大野城・那珂川防犯協会へ、迷惑電話防止機能付き電話機１５台を贈りました。

藤署長は「依然としてにせ電話詐欺は発生しています。不審電話がかかってこないように、遮断対策をすることが大事。贈呈された電話機を活用していきたいです」とお礼を述べました。

古ショウガ出荷



ＪＡ筑紫生姜出荷組合は１１月２０日に、古ショウガ約１ｔを加工業者へ出荷しました。

組合では８名の組合員が、山間地の畑４３ａでショウガを栽培。古ショウガとは、種として使った昨年産のショウガの株のことで、新ショウガに比べ辛みがあるのが特徴。主に粉末などの加工用に使われます。

古ショウガの出荷は、以前はサイズごとに分けた後に業者へ出荷していましたが、昨年から加工業者に収穫分の一括出荷を開始。調整や分別作業の時間を削減し、組合員の負担を減らすことが可能となりました。組合員は「出荷にかかる負担や手間が減り、とても助かっています。今後も出荷を続けていけるように頑張っていきたいです」と意気込んでいました。

農産物品評会が行われました



１１月２２日に、筑紫野市のＪＡ本店で第３９回ＪＡ筑紫ふるさとまつり農産物品評会が開かれました。ＪＡ管内の生産者が出品した野菜や果実、花、加工品など５２４点から、優秀賞２０点、優良賞３０点を選出。２３日の表彰式では、最高賞の福岡県知事賞に輝いた中川さつきさんをはじめ、特別賞を受賞した生産者１５人のうち９人を表彰しました。

受賞した中川さんは「賞をいただいてとても光栄。これからも野菜づくりを頑張っていきたいです」と受賞を喜びました。

ふるさとまつり大盛況



JA筑紫は11月23～24日の2日間、本店で組合員や地域の方々に日頃の感謝を込めて、第39回JA筑紫ふるさとまつりを開きました。イベントは、天候にも恵まれ、2日間で約1万2千人の来場者で賑わいました。会場では、テレビやラジオの取材も入り、会場の様子を生放送で伝えました。

毎年大人気の焼肉弁当コーナーでは、JA肥育牛部会の「博多和牛」を使った焼肉弁当が味わえると、販売が始まる前から長蛇の列ができました。また、組合員や女性部、青壮年部、職員らによる農産物販売や模擬店なども賑わいました。

ステージでは、農産物品評会の表彰式の他、組合員の演芸大会、福岡農業高校の生徒による「福農太鼓」の演奏やファッションショー、地元の子どもグループのダンス披露などが行われました。

三宅貞行さん 農事功労者として紫白綬有功章受章



筑紫野市の三宅貞行さんが11月19日に筑紫野市の藤田陽三市長へ、30日に福岡県庁の服部誠太郎副知事へ表敬訪問しました。三宅さんは、秋篠宮さまが総裁を務める公益社団法人大日本農会から、農事功労者として紫白綬有功章を受章。福岡県の生産者が紫白綬有功章をもらうのは、1933年以来、85年ぶりのことです。三宅さんから報告を受けた服部副知事は「この受章はとても素晴らしい。福岡県も『博多和牛』の知名度向上に向けて協力していきます」と激励しました。

三宅さんは「このような有功章をもらってとても光栄です。これからも精進していきたいです」と喜びを語りました。